

12. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (沖縄)	◎	一般小売店 〔酒〕（店長）	販売量の動き	・能登半島地震によって、県外からの観光客が減っているようにみえるが、野球、サッカーのキャンプも始まっているため、期待したい。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・現在まだ新型コロナウイルス感染症の影響が微妙にあり、飲食業は多少は回復しているようだが、商店街での物販は、店によっては厳しい状況が続いている。
	○	百貨店（経営担当）	来客数の動き	・年末年始の買上客数が新型コロナウイルス感染症発生前の水準に戻りつつある。
	○	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・来客数が増えている。特に夜間、休日の人の動きが良くなっている。また、観光客が若干増加している。
	○	コンビニ（副店長）	単価の動き	・来訪するクルーズ船寄港数、国際線の利用者数も順調に回復しており、円安の影響でインバウンド利用者が増えることによって単価自体も上昇傾向とみている。
	□	家電量販店（営業担当）	来客数の動き	・前月と比べて来客数は改善傾向だが、まだ前年を超えていない。
	□	乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・販売量が安定している。
	□	旅行代理店（マネージャー）	販売量の動き	・特に伸びる要素もないが、ある程度横ばいで推移している。
	□	住宅販売会社（代表取締役）	来客数の動き	・人件費や建築資材高騰の影響で建築単価が高止まりしており、客は住宅取得に対して及び腰の印象を受ける。
	□	住宅販売会社（役員）	単価の動き	・中心市街地から離れた地域でも新築住宅の販売価格が値上がり傾向にあり、販売状況は鈍化傾向とみられる。
	▲	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・今月の来客数をみると、前年は超えているものの、3か月前の前年比と比べると落ち込んでいる。暖冬の影響で季節商材が落ち込み、売上が苦戦している。
	▲	コンビニ（経営企画担当）	来客数の動き	・3か月前は、気温も高く雨も少なかったことが影響し、来客数が想定よりも多かったが、今月においては急に寒くなった時期もあり、来客数が鈍くなっている。
	▲	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・単純に来客数が減っている。やはり多くの人々が円安や物価高の影響を受けている。
	▲	その他専門店〔陶器〕（製造）	お客様の様子	・自身の売上は低下していないが、客先から観光客の減少について聞いている。冬休み明けなので例年のことではある。
	▲	一般レストラン（代表者）	来客数の動き	・1月は来客数が少なく売上が上がらない。
	▲	その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	来客数の動き	・1月は成人式後からの平日の入客が例年の半分ほどに落ちている。週末は例年の90%くらいは保っているが、平日の入客が極端に悪い。地元客の財布のひもが固くなっている。
	▲	観光型ホテル（代表取締役）	来客数の動き	・宿泊部門は低調である。3か月前は修学旅行などの団体もあり良い傾向にあったが、1月は年末年始の宿泊も少なく、それ以降も良くない。2019年比で65%程度の売上である。料飲部門は年明け新年会などに期待したものの、需要も想定より少なく、さらに、人材が整っていないため予約を断ることもある。2019年比で50%の売上である。
	▲	観光型ホテル（企画担当）	販売量の動き	・ホテルの10月の販売室数が前年比6%減少なのに対し、1月の販売室数は前年比12%減少とマイナス幅が大きくなっている。
	×	*	*	*
企業 動向 関連 (沖縄)	◎	－	－	－
	○	食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・人手不足ということでM&Aや業務の縮小など出てきているが、県内は入域観光客数が増加し、経済活動は活発である。
	○	輸送業（経営企画室）	取引先の様子	・物流倉庫の建設予定や県外大手企業の製造工場立地案件、海外向け輸送案件の相談、実施が増加しており、景気が良くなっているとみられる。

	<input type="checkbox"/>	窯業土石業（取締役）	受注量や販売量の動き	・見積依頼は微増しているが、受注状況に大きな変化はない。
	<input type="checkbox"/>	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注が、全く止まっている。
	<input type="checkbox"/>	会計事務所（所長）	それ以外	・経済全体として物価上昇と賃金上昇のタイミング、その上昇幅がどのように影響するかが予測不可能である。
	▲	—	—	—
	×	—	—	—
	◎	—	—	—
雇用 関連 (沖縄)	○	求人情報誌製作会社（営業）	求人数の動き	・求人数は業種、業界を問わず、全体として前月比で約30%増加している。そのなかでも建設業、飲食業、介護職、保育職が前月より大きく増加している。
	<input type="checkbox"/>	人材派遣会社（総務担当）	求職者数の動き	・求職者の動きが鈍く、求人案件は増えているがマッチングできない。深刻な人手不足で需要に対応が追い付かない状況である。
	<input type="checkbox"/>	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数については、前年同月比では横ばいであり、ここ最近横ばい傾向が続いている。また、求人票へ記載される賃金は上昇している。物価高の生活への影響を注視している。
	<input type="checkbox"/>	学校〔大学〕 （就職支援担当）	それ以外	・物価高により消費意欲が低下している。
	▲	—	—	—
	×	—	—	—